

一般質問通告表

1.

11番 西村 一啓 議員

質問方式 一問一答

5期20年にわたる入山市政の取組に関する総括について

5期20年にわたる入山市政では、米軍基地再編に関する方針決定により後に交付金の活用が可能となるなど、市財政に多大な貢献をされました。

また、子供の安全と健康的な環境を備えた小・中学校の整備。県内各市町の先駆けとして実施した学校給食費の無償化、こども医療費の無償化等の子育て支援に係る政策。その他、市立保育所等の整備、地域産業の振興、地域の歴史の伝承に関する事業、災害に強いまちづくり、大竹駅の橋上化及び東西自由通路の整備、大竹駅前広場等の整備など、数多くの取組により大竹市の発展に尽力されました。

一方で、大願寺地区売却に関する市長個人に対する訴訟や検察審査会の対応などでは、多大なる心労もあったものと考えます。

5期20年と長期にわたる市政運営に対する総括及び今後の大竹市についての思いを伺います。

2.

5番 岡 和明 議員

質問方式 一問一答

自転車通行帯設置努力条例を

4月から自転車の青切符制度が導入されて、自転車の歩道通行は(例外はあるものの)通行区分違反として6,000円の反則金が科されることになりました。自転車が安全に走れる道路整備を後回しにして制度が導入されたことで、市民各層から「どこを走ればいいのか」と困惑の声が数多く上がっています。

こうした最中にも、市内各地で自転車利用に配慮のない施設の工事が進んでいます。市の未来の可能性が狭められていくのは見るに堪えません。

一定の規範がなければ、今後も自転車の安全が確保されない道が作られ続けるでしょう。道路や周辺を整備する際には、自転車通行帯を設置する条件のある所では設置に努め、今すぐ条件のない所では将来性を潰さないよう配慮する条例やガイドラインを定めるべきと考えますがいかがでしょうか。

3.

2番 中野 友博 議員

質問形式 一問一答

阿多田島における急患搬送体制と民間救急船協力事業者への支援について

阿多田島では、島内で急患が発生した際、民間船舶事業者が救急船として患者搬送を担っている。

しかし、近年の燃料価格高騰や人件費負担、深夜・早朝対応など、事業者側の負担は増大している一方で、出動謝礼は平成21年以降見直されていない状況である。

また、3事業者のうち特定事業者に稼働が偏っているとの声もあり、今後の高齢化進展に伴う搬送需要増加も懸念される。

こうした状況を踏まえ、行政として現場事業者への丁寧なヒアリングを行い、実態把握と持続可能な搬送体制構築に向けた報酬・運用体制の見直しについて問う。

大竹市観光振興計画策定について

昨年度より新規事業として進められている「大竹市観光振興計画策定事業」について、現在プロポーザル事業者も決定し、今後は素案策定の段階へ進んでいくものと認識している。

人口減少が進む中、交流人口・関係人口の創出、地域経済循環、地域の魅力発信は今後の大竹市にとって重要な視点であり、観光を単なるイベントや誘客ではなく、地域経営・都市経営の視点から育てていく必要があると考える。

一方で、全国的にも観光振興計画は「作って終わり」となる事例も多く、計画を実行していく主体や地域プレーヤーの育成、官民連携体制の構築が極めて重要である。

そこで、現在までの調査・分析状況、計画策定の方向性、FAMツアーや有識者会議の考え方、推進体制等について問う。

4.

3番 豊川 和也 議員

質問形式 一問一答

大竹市住民投票条例の抜本的改正（永住外国人の投票権削除）

平成15年12月26日の施行から22年が経過した。当時は地方分権の推進が主眼であったが、現在は国家主権や安全保障の観点から、住民投票のあり方が厳しく問われる時代となっている。

改正の必要性：国政に影響を及ぼし得る常設型の住民投票において、外国人に日本人と同等の投票権を認めている現状は、憲法上の参政権の概念に照らし合わせても極めて不適切である。直ちに条例を改正し、投票権者を日本国民（日本国籍を有する住民）に限定すべきではないか。

時代の変化への対応：20年前の議論を金科玉条とするのではなく、他自治体（武蔵野市等）での否決事例や全国的な見直しの動きを鑑み、市長の政治判断で改正案を提出する考えはないか質す。

屋内プールの利用による市民の健康・教育環境の堅持

市民の生活に直結する健康づくりは、条例改正と同様に喫緊の課題である。

健康づくりや介護予防としての屋内プール活用を市はどのように考えているのか問う。

青切符導入後の自転車（16歳未満）の交通安全と点字ブロックの総点検

「市民の命と安全を守る」観点から、以下の2点を問う。

自転車安全対策：16歳未満の通行ルール変更に伴う教育現場での周知徹底状況。

バリアフリーの徹底：市内の点字ブロックの不備（剥がれ、遮断物）を早急に解消し、障がい者が安心して歩ける環境を整備する計画を問う。

「亀居城跡」の維持管理と観光発信

先般視察した松野町では、歴史資源を核とした地域活性化が戦略的に行われていた。本市の象徴である亀居城跡においても、その知見を活かすべきだ。

「おもてなし」の基礎、維持管理：観光客が最初に見るのは管理の行き届いた景観である。現在の草刈りや落ち葉清掃の頻度は適切か。シルバー人材センターやボランティアとの連携強化による徹底した美化管理を求める。

来城意欲を高める施策（ソフト事業）：松野町でも見られた「御城印（ごじょういん）」や「スタンプ」、「記念ノート」の作成・販売など、城跡を訪れた証を残せる仕組みづくりを行い、関係人口の創出を図る考えはないか問う。

また、松野町では、小学6年生を対象としたカリキュラム「森の国山城学」が平成28年度から実施されています。それらのお考えをお聞きます。

教育大綱について

教育大綱と言うものは義務化されたのでしょうか。大竹市の教育大綱は第一段階の様に思いますが、最近かなり良い意味で戦略的なものが出始めたように思われます。

市長と教育長に最近の変化について、感想をいただきたいと思います。